

# 環境だより



環境課 ☎66・1122

環境を積極的に守り、豊かな自然を次世代に引き継ぐために、愛知県公害防止条例を全面的に改正し、10月1日から県民の生活環境の保全等に関する条例が施行されました。

この条例は、従来からの大気汚染、騒音・振動などの規制に加えて、土壌・地下水汚染の防止や地球温暖化防止などの新たな環境問題に対処し、よりよい環境を確保するために規定されました。

## 主な改正点

○土壌・地下水の汚染の防止に関する規制

特定の有害物質を取り扱う場合の汚染防止義務、事業所

## 豊かな自然を引き継ぐために



この条例は、愛知県環境部のホームページ (<http://www.pref.aichi.jp/kankyo/>) に掲載されています。

○自動車使用に伴う環境への負担の低減  
アイドリングストップの義務、事業者の低公害車導入義務など。

## ○地球温暖化の防止

温室効果ガスの排出抑制に向けて、地方自治体・事業者・住民のみなさんが取り組むべき責務や義務など。

○科学物質の適正な管理  
特定の化学物質を取り扱う場合における取扱量の把握・届出、管理書の作成・提出など。

# 消防最前線

Journal of Fire Department 119

URL <http://www.city.gamagori.aichi.jp/syoubou/index.html>

皆さんは「カラビナ」というものをご存じですか。登山に行く方なら、よく知っている道具でしょう。

消防では自分自身の安全確保や、さまざまな救助活動において欠かすことができません。ロープの昇り降り、渡る時など現場にいれば毎日1回は触れることとなります。

救助工作車には数種類のカラビナが、何個も載っています。隊員は、それぞれカラビナを持ち、さまざまな現場に応じてカラビナを選びロープと組み合わせて使用します。カラビナには、形、大きさ、強度の区別からさまざまな種類があります。消防で使われる一般的なタイプはO型環付きカラビ

## カラビナ



▲カラビナ

ナというもので、約千600kgの重さに耐えることができます。カラビナの構造は複雑ではありません。安全環というネジ付きの環を開け閉めし、ロープを通して使えます。安全環を閉め忘れることは絶対許されません。扱いを一步間違えると、大ケガや命にかかわってきます。そのため、消防士は手になじませ扱いに熟知するために、常にカラビナを手元に置き、いつでも万全の状態にあるよう手入れを怠りません。寝るときも握り続けている消防士もいるそうです。

手の中に収まってしまいうくらしい小さな道具であるカラビナですが、私たちの何倍もの重さを支え、何人もの人を救助するという大きな役割を担っているのです。